

■第4次国土利用計画裾野市計画 土地利用構想図案<ゾーン別方針>

**■健康・スポーツ・レクリエーション交流ゾーン**  
 国立公園を除く富士山麓、愛鷹山麓の幹線道路沿道と既存のゴルフ場、キャンプ場等が立地するエリアを位置付ける。本ゾーン内においては、周囲の自然環境との調和を図りながら、観光レクリエーション機能やリゾート関連機能の立地を図る。

**■産業集積ゾーン**  
 東名高速道路裾野 IC 周辺から須山地先までの地域を位置づける。本ゾーン内においては、防災・減災と職住近接に配慮した地域づくりの実現を図るとともに、既存の産業立地及びファルマバレー・プロジェクトとの連携・調整、先進技術を活用した新たな研究開発の促進と市内外への波及効果を図り、周辺土地利用との調和を図りながら、産業の集積を目指すとともに、地域資源を活かした観光機能の充実により、交流による発展を目指す。

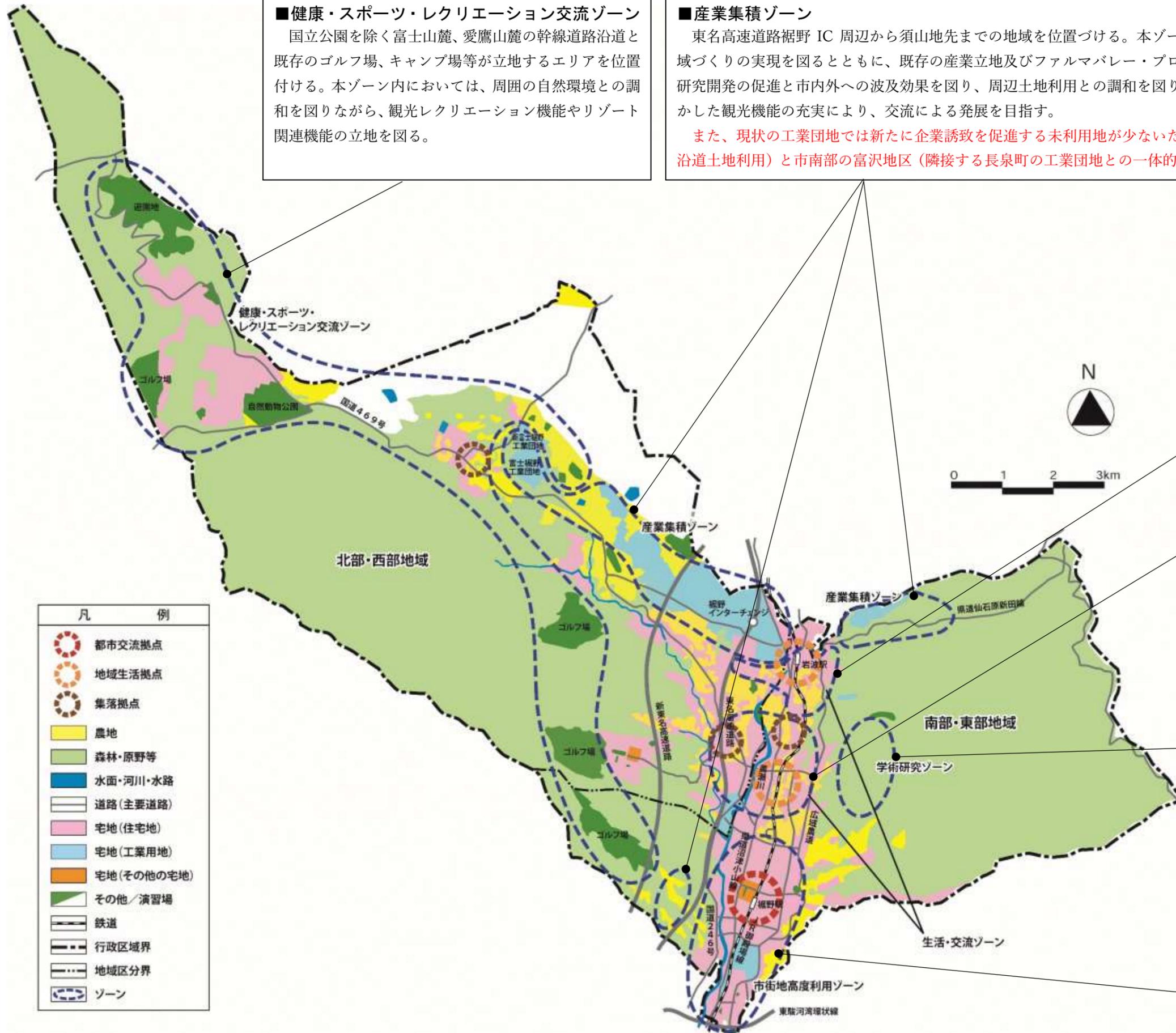
また、現状の工業団地では新たに企業誘致を促進する未利用地が少ないため、**県道仙石原新田線周辺（既存の工業団地と周辺の沿道土地利用）**と**市南部の富沢地区（隣接する長泉町の工業団地との一体的土地利用）**においても、**産業集積ゾーン**に位置づける。

**■生活交流ゾーン（岩波駅周辺）**  
 JR 岩波駅周辺を中心とする市街地部分を位置づける。本ゾーン内においては、周辺部の土地利用と調和を図りつつ、宅地需要の動向を見ながら、生活機能の維持・誘導とその周辺における居住誘導を推進し、生活交流の副次的な拠点の形成を図る。

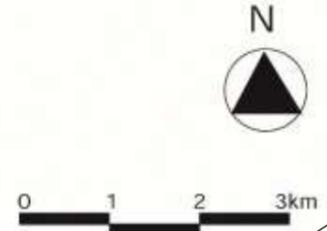
**■生活交流ゾーン（深良新駅周辺）**  
 深良新駅（構想）周辺の新市街地部分を位置づける。本ゾーン内においては、周辺部の土地利用と調和を図りつつ、宅地需要の動向を見ながら、必要な都市基盤整備や土地利用の整序により、新たな生活交流拠点の形成を検討する。

**■学術研究ゾーン**  
 箱根西麓の市有地周辺の有効活用を図る地域を位置づける。本ゾーン内においては、森林保全と調和を図りながら、先進技術を活用した研究開発と連携しながら、学術研究拠点等の形成を検討する。

**■市街地高度利用ゾーン**  
 JR 裾野駅を中心とする市街地部分を位置づける。本ゾーン内においては、面的な都市基盤の整備による都市機能の誘導、その周辺における居住誘導を図るとともに、産業関連機能等の多様な機能誘導により、市街地の高密度化を目指す。



凡	例
	都市交流拠点
	地域生活拠点
	集落拠点
	農地
	森林・原野等
	水面・河川・水路
	道路(主要道路)
	宅地(住宅地)
	宅地(工業用地)
	宅地(その他の宅地)
	その他/演習場
	鉄道
	行政区境界
	地域区分界
	ゾーン



第3次国土利用計画裾野市計画 将来土地利用構想図

第4次国土利用計画裾野市計画（新国土利用計画） 将来土地利用構想図

【主な見直し事項】

○生活交流ゾーン（深良新駅周辺）の拡大

理由：ウーブンシティ実現による影響で宅地供給の重要な高まりに対応するため

○県道仙石原新田線周辺と市南部の富沢地区における産業集積ゾーンの位置づけ

理由：既存の産業集積ゾーン内は未利用地が少なく、先進技術の活用に係る新たな企業進出の需要が高まることが予想されるため

○都市交流拠点、地域生活拠点、集落拠点の位置づけ

理由：コンパクト・プラス・ネットワークの考えに基づく立地適正化計画の策定により、裾野駅・岩波駅周辺の拠点や集落拠点の形成に向けた土地利用と連携の必要性が高まっているため

